



▲マゴチの本格シーズンはこちら



●だてまき丸のマゴチは12月までロングランで楽しめる

▶アタリは多く魚影はかなり濃いよった

●合わせが決まった瞬間が最高に気持ちいい

▼希望者には出船前に船長からエサ付けや釣り方のレクチャーを受けられる

東京湾奥横浜新子安出船 東京湾のマゴチ開幕好ダツシユ ヒット連発で全員安打もあり!

撮影●本誌編集部



▲船宿仕掛けはフロロカーボン5号1.5メートル、ハリはスズキ18号を使用。オモリは三日月型の15号
▲シーズン初期のエサはサイマキ(小型のクルマエビ)

▼ポイントは富岡沖の水深15メートル前後



●手バネのファンも多い



●スマイカも交じった



▲だれにでもアタリがくるチャンスはある



●たまに小型も交じる



▲シーズン初期は40~50センチ級が多い



▲当日は食い込むまでに時間がかかった



▲海面バラシもよくあるので最後まで気が抜けない



▲ゲストにシーバスがヒット

LECTURE
サイマキエサの付け方

- ▲ケンを折る
- ▲ハリ先を口へ当てる
- ▲ハリ先をそのまま真っすぐ押し込み、チモトを起こしつつハリをフトコロを押し込む
- ▲わずかにハリ先を出して止める



▲当日は40センチ級が多かった

開幕したばかりの東京湾のマゴチが好調だ。3月1日からマゴチ乗合をスタートさせた東京湾奥横浜新子安・だてまき丸では富岡沖の水深15メートル前後をメインに狙い、いい日には40~50センチ級をトップ5本前後、全員型を見られる日もある。

「水温が安定してくれば今後アタリはもっと多くなってさらに楽しめると思っています」と同宿の宮地至人船長は話す。マゴチ釣りの魅力はアタリが出てから合わせるまでの駆け引きと、合わせが決まったときの快感。今ならそのだいご味を存分に味わえるはずだ。(詳細は60ページ参照)



●東京湾奥横浜新子安・だてまき丸 宮地 至人船長